

インドネシア人が見た日本の文化

最近インドネシアにある大きい町ではさまざまな日本と関係があるものはすごく流行っています。

みなさんがインドネシアにいらっしゃったら、道でほかの国の車よりほとんど日本の車ばかり走っていることが見られます。ホンダ、トヨタ、スズキ、ダイハツ、など、それにバイクの方もほとんど日本のバイクがすごくたくさんあります。聞いてみますと、一つの理由としては、日本の車は形もいいし、品質もいいし、部品までも簡単に買えると言っていました。

次に、大きい町では、日本の文字で書かれた日本のレストランの名前が見られるようになります。スシテイとか、シンメンとか、トリゲンなどがあり、めずらしいレストランの名前まであります。そのおかげで、人々は日本の食べ物つまり、ラーメン、しゃぶしゃぶ、すきやきなどが食べられるようになります。本屋の方へ見てみますと、ほとんど日本の漫画、ナルト、ドラエモン、シンチャンなどが見られますが、インドネシアの漫画は少なく、本当に悩んでいます。若者たちが日本の漫画のヒーロのほうがよく分かると思います。

インドネシアでは、“Jepang” 「日本」の事を聞いたら、着物、さむらい、アニメなどを頭にすぐ浮かんでいる。特に若者たちの世界では、“「日本」といえばアニメです”とか、“原宿スタイルです”とか、すぐ言えるようになります。若者たちがすごく日本のことがすかわれているらしいです。

人達にさまざまな日本の文化を紹介した後色々なコメントが出てきました。例えば、学生達に「月見」という文化を紹介されたら、（ええ、どうして月を見るだけでもそういう行事があるのか、こっち「インドネシア」は月というものはいつでも見られるんじゃないですか。）とか、奥さんたちに茶の湯という文化を紹介すると、「ええ、お茶を作るのにそんなに時間がかかるし、やり方もずいぶん簡単なものではないし、大変ですよ。」と色々なコメントが出てきました。それに、祭りのようなものをビデオで見せたら、「わあ、すごいですね、とか、面白い祭りですね、とか、そんな立派な行事を行うために必ずたくさんのお金がかかるんですよ。」と言って感心しています。また、成人の日に若者が着物を着、さまざまな祭りは所々でやり、人々が文化を守って、いっしょにさまざまな行事を行うのは大変感動しています。内の大学では、日本の文化は「日本史と日本事情」という科目に一学期しか教えません。本当に少なく短いです、心に残っているらしいです。伝統的な楽器（琴）、生け花、折り紙なども人々によって習われています。あるイベントで若者たちが着物を着、コスプレもやり、日本文化に対してすごく関心を持っていると思います。ただ、日本の文化の中で一番びっくりさせていたのは「腹切り」という文化があることです。インドネシアでも、自殺する人はいますが、文化ではありません。どうしてそういう文化があるのか、まったく考えられません。

日本の文化は昔の文化と最近の文化がミックスすることができ、昔の文化は今までまだ残っているのはうらやましいと感じています。どうして日本人は文化を守ることができるかという疑問に現れています。

インドネシアの方では文化というものは少なくなくて、すごくたくさんあります。インドネシアではさまざまな文化がいっぱいですが、インドネシア人がみんな知っているわけにはいかない。インドネシアは地域によって文化が違いますので、ある場合は一つの文化を見せる時、それはインドネシアの文化です、スンダの文化とか、ジャワの文化とかを言ってしまいます。また、あまり文化に興味がない人は文化と関係がある行事を全然やらない人もいると思います。例えば、'kebaya' という伝統的な服を着ている人は少なくなっていました。'kebaya' はイベントがある時しか着ていません。結婚式の時も数年前は必ず伝統的な服を着ていますが、最近はちょっと違う感じになって、もっとモダンなスタイルになってしまいます。また、結婚式のパーティに鳴らす楽器も'degung' 「伝統的なスンダの楽器」じゃなく、オルガンに変わってしまいます。考えて見ますとスンダの人々はモダンなスタイルになりたがっているかもしれないでしょうか。

文化を守るために私たちは色々な努力をします。例えば、学校や事務所では一周間に一回は「バティック」を着ているとか、テレビ番組で様々なインドネシアの文化を紹介するとか、学校では地域の言語や文化をしばしば教えています。UPIの方ではカブミという文化クラブを開かれていて、インドネシア特にスンダの文化を紹介します。このクラブは様々な伝統的な踊りや歌、楽器を鳴らすことまで全国だけでなく、外国でもよく上演します。カブミはもう 8 回日本で上演したことがあります。

さて、インドネシアにある日本語の教授を見てみましょう。最近、インドネシアでは日本語がすごく流行っています。中学校から大学まで塾なども日本語を教えているわけで、日本語を習っている人々も増えてきました。UPIの方でも日

本語学科で日本語を勉強する学生は数年前と比べて増えてきました。今年はやく400人ぐらい日本語学科で日本語を勉強しています。UPIの日本語学科ではさまざまな課目を教えられますが、文化と関係がある課目は上に述べたように「日本史と日本事情」という科目に一学期しか教えませんので、足りないと思います。日本語を勉強する際に言語だけでなく、文化、人々の習慣と関係がある科目も教えなければならないと思います。それに、今年からUPIは日本の政府と協力して、日本人の老人たちを看護するために400人ぐらい日本語を習っています。来年、看護学(D3)を開く予定がありますから、日本の文化や日本人の習慣が分からなければ、困ると思います。日常生活に日本人と付き合う時、お互いに誤解しないように異文化という科目も必要だろうと思います。日本文化をよく分かるように「日本研究センター」も開くつもりです。今まで、UPIはThe Japan Foundationや、The Nippon Foundationに日本と関係がある本や教科書などを援助していただいたおかげで、学生の日本語の能力も日本のことの知識も高めることができます。

最後に、この機会にUPIは奈良教育大学と協力続ければ、幸いだと思います。特に、文化を守るためにどうしたらいいか、どんなことをやらなければならないのか、私たちは日本人から色々なことを教わりたいと思います。